

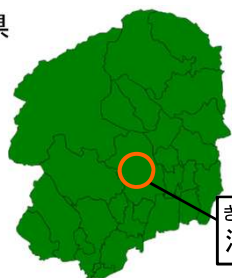
【工夫のポイント】

- 基盤整備により営農条件が改善し、園芸作物の品質・収量向上が図られるとともに、新規作物の導入が促進。
- 地区外企業の農業参入による収益性の高い農業展開と6次産業化への取組。
- 栃木県オリジナル品種の梨「にっこり」の生産及び輸出への取組。
- 障がい者施設と連携し、生産・加工などの作業労働力を確保。

【取組地域の概要】

- 位置 うつのみやし
栃木県 宇都宮市

栃木県

きよはらなんぶ
清原南部地区

- 主要作物
米、麦、梨、トマト、白菜、キャベツ、ネギ、
トウモロコシ、大根など
- 主な支援施策
 - ・国営かんがい排水事業(S53～H7)
 - ・県営畑地帯総合整備事業(H4～19)
 - ・多面的機能支払交付金事業(H19～)

基盤

パイプラインの整備によるコスト削減と生産力の向上

区画拡大や用水のパイプライン化、自動給水栓の設置、農道の整備などを行うことで、営農条件が改善。

区画拡大された農地と
スプリンクラーかんがい

大型トラックによる作物搬出

基盤整備
(H2年～H19年)

【整備前】

農地は区画が狭く不整形であるとともに道路は狭小・屈曲し、効率的な営農が困難な状況。

用水は地下水に依存しているが揚水施設が老朽化。畑では天水のみで営農していた。



狭小な道路

生産現場

園芸作物の生産拡大

- 水路整備により栽培に適したかん水が可能となり、梨やトマトなどの品質・収量が向上。
- 大区画化によって経営規模が拡大し、キャベツやネギなどの露地野菜が新たに導入。



地域の取組

障がい者施設との連携(農福連携)

- 新たに導入した露地野菜などのための労働力を確保するため、地区内の障がい者施設と連携。
- 障がい者の心身リハビリ効果や就労訓練の場を提供(約10名を雇用)。



加工・流通

高付加価値化への取組(6次産業・輸出)

- 若手農業者や商工業者が連携して、地元野菜のピクルスを商品開発。直売所などでの販売に取組。
- かん水施設によって、梨の新品種「にっこり」の生産が安定。平成17年度からマレーシアや香港などこれまでに11ヶ国へ輸出。



6次産業化による産地収益力の向上

- 基盤整備後の経営移譲を契機として、消費者のニーズに合わせた梨の多品種生産に取り組み、直売及びネット販売などによって独自の販路を拡大。
- さらに、ジュースやドライフルーツなどの2次製品の加工・販売により所得が大幅に向上。



梨ジュース



ドライフルーツ

<農家Aの所得推移>

